

仮説 2 学習環境づくり

視点1 授業におけるUDの手立て

視覚化

メニューボードを使い、1時間の流れに見通しを持たせています。

時間の構造化

活動の仕方やルールを理解することができるように、デモンストレーションを行います。

共有化

ペア、グループ、全体など多様な学習形態で、自分の考えをアウトプットできるようにしています。

視点2 言語環境の充実

Staff Training

今週の一言English

毎週校内研修で、クラスルームイングリッシュ等の紹介を輪番で行っています。今年で4年目です。

＜学びのあしあと＞

＜6年生の作品～日本の紹介～＞

学びを共有する場

児童の学習シートや授業の様子をまとめたものを掲示しています。

English Road

視点3 モジュール学習の設定

English Time

＜今年度の英語科年間計画実施時数＞

学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
時数	34	35	100	100	100	100
授業時数(45分)	4	5	70	70	70	70
モジュール学習	30 (15分×週3回)					

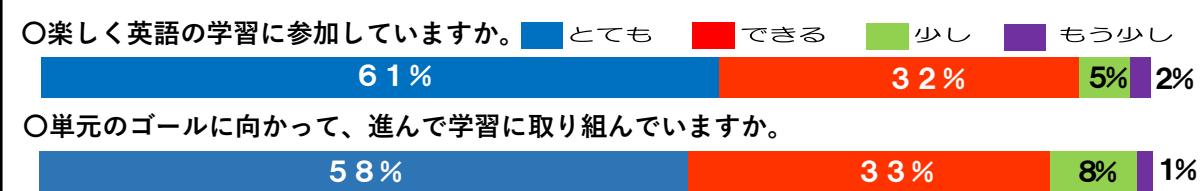
1・2年生は独自の単元計画を、3～6年生は既習事項の復習等を行っています。

＜モジュール学習の実施＞

	月	火	水	木	金
イングリッシュタイム	イングリッシュタイム	イングリッシュタイム	読み聞かせ	イングリッシュタイム	学級の時間

英語の歌と挨拶でスタート

おざかつアンケートの結果 (R1.10月実施)



【成果と課題】

○93%の児童が「楽しく英語の学習に参加している」と答えている。児童の様子や学習シートから、友達の新たな一面を知れたことや工夫して表現できたことに、喜びや楽しさを感じていることがうかがえる。

○「単元のゴールに向かって、進んで学習に取り組むことができた」と答えた児童が91%であった。教師と児童が共に単元をデザインしたことで、児童の主體的な学びにつながっていると考えられる。

△相手の考えに対して、話の内容を確かめながら反応したり、「I see.」「Me too.」等とリアクションしたりできる児童が多い。今後は、コミュニケーションがより充実したものになるように、児童の発達段階に応じたリアクションを提示したり、場面に応じたリアクションを児童から引き出したりしていきたい。

平成28年度～令和2年度 文部科学省教育課程特例校（英語教育）
 平成28・29年度 熊本県「生きる力」を育む研究指定校（小学校英語教育研究推進校）
 平成28年度～令和元年度 御船町教育委員会指定

御船町立小坂小学校英語教育研究発表会概要

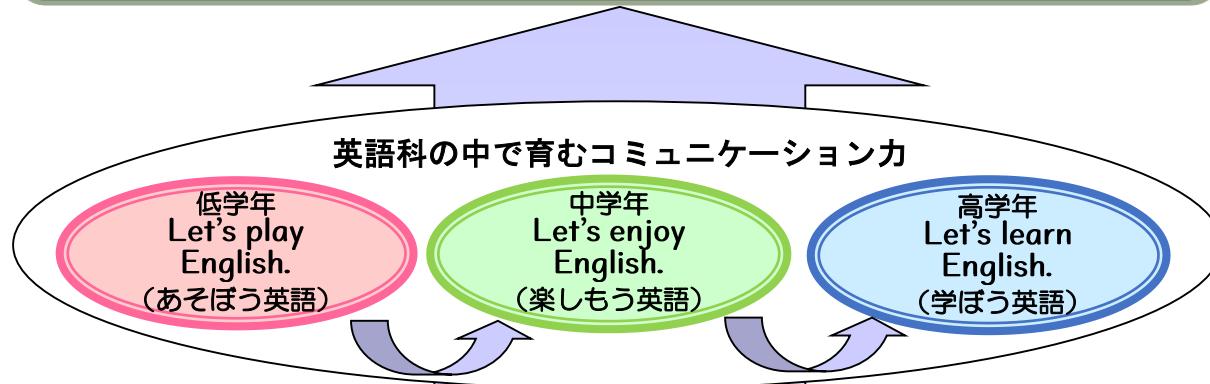
研究主題

豊かなコミュニケーション力を身に付け、自ら学びを深める児童の育成

～どの子どもも楽しく「分かる・できる」授業UDを通して～

目指す児童像

自分や身の回りの物事について伝え合い、自分の考えを深めることができる児童



＜仮説1＞

授業づくりを工夫すれば、児童が自ら学びを深め、表現することができるだろう

＜仮説2＞

学習環境を整えれば、児童は豊かな表現力を身に付けることができるだろう

【視点1】単元のゴールを見据えた授業づくり
 【視点2】必然性のある交流の場の設定
 【視点3】授業の振り返りの工夫



【視点1】授業におけるUDの手立て
 【視点2】言語環境の充実
 【視点3】モジュール学習の設定



発達段階に応じた学習内容 ・ 評価方法

授業内の評価 ・ 振り返りカード ・ 意識調査